

幌満かんらん岩体に産する輝石-スピネルシンプレクタイト構成鉱物の三次元組織と結晶方位の関係

Three dimensional analysis of pyroxene-spinel symplectite from the Horoman peridotite complex, Hokkaido

長島 僚子 [1]; 小澤 一仁 [2]; 森下 知晃 [3]; 土山 明 [4]; 中野 司 [5]; 上杉 健太郎 [6]

Ryoko Nagashima[1]; Kazuhito Ozawa[2]; Tomoaki Morishita[3]; Akira Tsuchiyama[4]; Tsukasa Nakano[5]; Kentaro Uesugi[6]

[1] 金大・理・地球; [2] 東大・理系・地惑; [3] 金沢大・FSO; [4] 阪大・院理・宇宙地球; [5] 産総研 地質情報研究部門; [6] JASRI

[1] Earthscience, Kanazawa Univ.; [2] Univ. Tokyo, EPS; [3] FSO, Kanazawa Univ.; [4] Earth and Space Sci., Osaka Univ.; [5] GSJ/AIST; [6] JASRI

北海道日高変成帯南西部に位置する幌満かんらん岩体には、斜方輝石、単斜輝石、スピネルから成るシンプレクタイトが産し、鉱物組み合わせ、化学組成的な特徴からざくろ石とかんらん石の反応によって形成されたと考えられている (Kushiro and Yoder, 1966; Takahashi and Arai, 1989; Ozawa and Takahashi, 1995; Morishita and Arai, 2003)。また SEM-EBSD を用いた結晶学的方位の測定結果から、このシンプレクタイトの構成鉱物間において系統的な結晶方位の関係性が存在することが明らかになった (Odashima et al., 2008)。CT スキャンによるシンプレクタイトの構成鉱物であるスピネルの3次元画像データによると、スピネル粒子はほぼ一つの方向に伸長しているように見える (Morishita, et.al., 2003)。そこで、シンプレクタイト中のスピネル粒子の伸長方向と結晶学的方位の間の関係について検討を試みた。本発表では予察的ではあるが、現段階での解析結果について報告する。